

9月下旬に成熟するリンゴ新品種岩手6号

奥平麻里子・鈴木哲・小野田和夫*

(岩手県農業研究センター・*遠野農業改良普及センター)

New Apple cultivar Ripens In Late September, Iwate No.6

Mariko Okudaira, Satoru Suzuki and Kazuo Onoda*

(Iwate Agricultural Research Center, *Tono Agricultural Improvement Spread Center)

1. はじめに

岩手県で栽培されているリンゴ品種は、晩生種に偏重した構成となっている。また、早生種収穫以降及び中生種収穫前の9月下旬に収穫できる優良品種が無いことから、この時期に収穫できる品種の開発が望まれていた。さらに、県北部及び高標高地帯ではジョナゴールドやふじの熟期が遅れることから、中・晩生の優良品種開発への期待は大きい。

そこで、品質及び栽培特性に優れた中・晩生の岩手オリジナルリンゴ品種の育成を目標とし、交雑育種並びに選抜を行った結果、9月下旬に成熟する黄色品種を獲得したので報告する。

2. 試験方法

(1) 特性調査

農林水産省種苗登録出願品種特性表にしたがった。

(2) 交雑和合性

調査は、各系統20花そうを供試した。調査花そうは、除雄を施さず開花前にハترون小袋で花そう全体を被覆した。交雑は5月13日に行い、再び袋で花そう全体を被覆した。結実調査は5月28日に行った。

(3) 黒星病に対する抵抗性の検定

孢子懸濁液は、2002年5月に採取し-30℃で約1年間保存したものを解凍後、滅菌水で 1×10^6 個/mlに調整した。2003年4月21日に圃場植栽の供試系統に噴霧接種した。接種部位は、ポリエチレン袋で被覆し、22時間多湿条件を保った。接種21日後、成葉の発病率を調査した。

3. 試験結果及び考察

(1) 来歴

平成2年につがるにプリシラを交雑し、獲得した種子を平成3年に播種した。この実生を平成4年にM.26台木に接ぎ木した。圃場整備に伴い、平成8年に穂木を採取し、M.9台木に接ぎ木した。平成12年に初結実と同時に一次選抜した。平成13年に二次選抜し、系統番号岩手6号を付与した。平成14年にその特性が優良であることを確認した。

(2) 栽培特性

熟期は、育成地(北上市)において9月下旬である。つがるより遅くジョナゴールドより早く、千秋とほぼ同時期である(図1)。

開花期は、ふじとほぼ同時期である(表1)。樹姿は開張性、樹の大きさおよび樹勢は中程度である。後期

落果性を有するが、ジクロロプロップ液剤の散布(2002年9月9日1,000倍散布)により十分な落下防止効果が認められた。

(3) 果実特性

果実の形状は円、玉揃いは良好である。果皮を被う色は黄色で、陽光面に赤く着色することがある(図2)。

果実の重さは300~350g、糖度は13%(Brix.)程度、酸度は0.3g/100ml程度であり、酸味が穏和で食味は良好である(表2)。

つるサビの発生程度は少である。裂果の発生は少ない。果肉のきめはやや粗く、果汁の量は多い。

ジクロロプロップ液剤を散布した収穫果において、硬度は15.7lbsであった(表2)。未熟果は果肉が非常に硬く、食味が劣るため、完熟してから収穫する必要がある。また、通常、裂果の発生は少ないが、過熟果では裂果が生じることもある。

完熟した果実は独特の芳香を有し、みつが入ることもある。

収穫果の日持ち性は、普通冷蔵で約1ヶ月、常温で10日程度である。

(4) 交雑和合性

ふじ及びつがるとの交雑和合性は相互に良好である(表3)。

岩手6号を種子親とした、主要品種との交雑和合性は概ね良好であるが、ジョナゴールドを種子親、岩手6号を花粉親としたときは交雑不和合である可能性が示唆された(表3)。

(5) 黒星病に対する抵抗性

岩手6号の発病率率は、検定の結果40.7%であり、黒星病に対する抵抗性は認められなかった(表4)。

4. まとめ

以上の結果から、岩手6号は、9月下旬に成熟する黄色品種であり、独特の芳香を有する甘酸適和で食味良好な果実であることが確認された。また、後期落果性を有するため、ジクロロプロップ液剤の散布は必須であると考えられた。

なお、ジョナゴールドを種子親とした交雑和合性の再確認並びに主要病害に対する抵抗性の有無については、さらに検討を要する。

| | | | | | | | | |
|----|-----|------|---------|-----|----|----|-----|----|
| 8月 | 9月 | | | 10月 | | | 11月 | |
| 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 下旬 |
| | つがる | 千秋 | ジョナゴールド | 王林 | | | | |
| | きおう | 岩手6号 | | | | | ふじ | |
| | さんさ | | | | | | | |

図1 岩手6号及び主要品種の成熟期

表1 岩手6号の開花期

| 系統・品種名 | 年次(樹齢) | 開花始 | 満開期 |
|--------|--------|------|------|
| 岩手6号 | 2001年 | 5/ 1 | 5/11 |
| ふじ | (6年生) | 5/ 4 | 5/ 9 |
| 岩手6号 | 2002年 | 4/26 | 5/ 2 |
| ふじ | (7年生) | 4/27 | 5/ 2 |

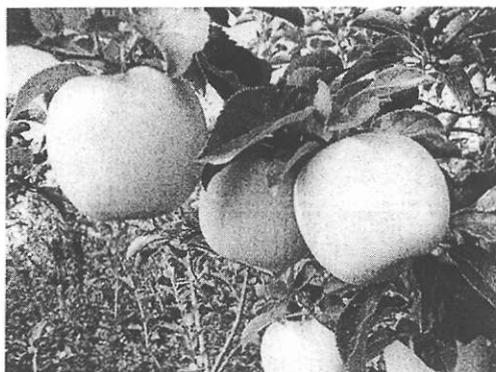


図2 '岩手6号'の結実状況

表2 岩手6号の果実品質(2002年)

| 系統・品種名 | 樹齢(年) | 収穫日 | 平均果重(g) | 分析果数 | 分析果重(g) | 硬度(lbs) | 糖度(%) | 酸度(g/100ml) |
|------------------------|-------|-------|-----------------------|------|---------|-------------------|-------|-------------|
| 岩手6号 ^x /M.9 | 7 | 9/27 | 347(±36) ^y | 10 | 351 | 15.7 ^x | 13.2 | 0.30 |
| つがる/M.9 | 9 | 9/11 | - | 10 | 370 | 11.6 | 13.2 | 0.17 |
| ジョナゴールド/M.26 | 7 | 10/16 | - | 10 | 473 | 11.7 | 14.7 | 0.47 |

^x9月9日に、ストップール液剤1,000倍を散布。

^y平均果重の()内は標準偏差。

表3 岩手6号と主要品種との交雑和合性

| 組み合わせ | | 調査花数 | 結果実数 | 結実率(%) | 調査年(年) |
|---------|---------|------|------|--------|--------|
| 種子親 | 花粉親 | | | | |
| 岩手6号 | ふじ | 90 | 71 | 78.9 | 2003 |
| 岩手6号 | つがる | 89 | 68 | 76.4 | 2003 |
| 岩手6号 | きおう | 75 | 44 | 58.6 | 2003 |
| 岩手6号 | 王林 | 90 | 70 | 77.8 | 2003 |
| 岩手6号 | ジョナゴールド | 67 | 51 | 76.1 | 2003 |
| ふじ | 岩手6号 | 39 | 26 | 66.7 | 2002 |
| つがる | 岩手6号 | 51 | 48 | 94.1 | 2002 |
| きおう | 岩手6号 | 88 | 43 | 48.9 | 2003 |
| ジョナゴールド | 岩手6号 | 46 | 10 | 21.7 | 2002 |
| ジョナゴールド | 岩手6号 | 88 | 6 | 6.8 | 2003 |
| ふじ | つがる | 58 | 31 | 53.4 | 2003 |

表4 岩手6号の黒星病発生程度(2003年)

| 系統・品種名 | 調査葉数 | 発病葉数 | 発病葉率(%) |
|--------|------|------|---------|
| 岩手6号 | 59 | 24 | 40.7 |
| つがる | 49 | 29 | 59.2 |
| プリシラ | 54 | 0 | 0.0 |

注) 接種には各系統6頂芽を供試し、花そう葉の発病葉率を調査した。